

木育 MOKUIKU かわら版

知ろう、使おう、広げよう、みやぎきの木



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

Vol.
10

Contents

Page1	木育指導員候補者研修会
Page2	木育サポーター養成講座
Page3	木育ネットワーク部会全体会議
Page4	西白杵木育研修会

みらい「木づかい・木育」推進事業

みやぎき木育指導員(仮称)候補者研修会

日時：令和元年6月13日(木)、14日(金) 両日9:00～16:30
場所：宮崎県企業局 1階 県電ホール
講師：岐阜県立森林文化アカデミー教授 松井 勅尚氏
T・A：ぎふ木育協会事務局長 吉田 理恵氏
参加者：6名



松井 勅尚 (まつい ときなり)

岐阜県立森林文化アカデミー教授。木育実践研究者。一陽会彫刻部委員。「文化と子どもを真ん中に置いたまちづくり」を目指し、「MOTTAINAI 工房」「木育カフェ」を考案しスタート。「ぎふ木育30年ビジョン」策定に関わり、現在「第3期ぎふ木育指導員養成講座(全7回)」監修。地域に根ざした独自の木育プログラム開発多数。全国の幼保、大学などの木育研修などを支援。「幼児の心とからだを育むはじめての木育」編著(黎明書房)

今年度からの取組として、木育活動を行う人材育成を図るとともに、研修で教材の選択の背景、目的などを体感し、今後のみやぎらしい教材開発を行える人材育成が始まりました。

今回の研修には、県央、県北、県西などから6名の候補者が選ばれ研修を受講しました。

➤ 指導者としての心構え【想い】

この事業の名称には「みらい」とひらがなでつけられています。将来の担い手である子どもたちが喜びを持って社会を生きていける宮崎に、という大人の願いがあります。

今、2007年生まれの日本の子どもたちの半分以上が107歳まで生きるというデータが出ています。「モクイク」とは、究極には『人と木(自然)の命を大切にすることを育む』ことであり、人生100年時代を、それぞれの一生を、どうやって喜びと生きがいを持って生き抜いていくのかを考える力を育むことでもあると思います。

木育とは決して“特別なもの”ではありません。例えば、園における英語教室やスポーツ教室、音楽教室のような+αではなく、日々の暮らしのことであります。暮らしを自身の手で作り出しながら、そこに『大人の願い』を、姿や言葉を通して体験として伝えることが大切です。

➤ 指導者としての心構え【意識】

・道具の理解 ・人の理解 ・木材の理解

上記3点が揃っていないと、安全で楽しいモノ作りは行えません。木材の基本的な理解はもちろんですが、材料の揃え方や、自分の身体の使い方を知ること、道具は身体の延長として使えることが大事です。また、みやぎきの目指す木育の中に、「木材に対する親しみ」とありますが、この「親しみ」という言葉を、どのようにとらえるか？また具体的な体験として落とし込むかを工夫することが重要であります。

➤ 指導者としての心構え【道具のこと、姿勢】

教材・みやぎきスギを材料にした“箱イス”

「道具は身体の延長である」ことの実感が身体を育むためにとっても重要です。うまく作ることに集中するあまり、身体を痛めてはいけません。道具と姿勢は表裏一体です。この研修では、「重力と姿勢の気づきのためのラジオ体操」を反復して行いながら道具のことを学びます。次に使う人のことを気遣い、空間をどのように使うか、この先、何をやるのかを考えて主体的に行動してください。

- ・道具の置き方…安定し美しい配置を心がけることが安全教育につながる。
- ・道具の運び方…移動中に他人を傷つけないように気遣いながら運ぶ。
- ・玄能の使い方…身体に負担がかからないよう、玄翁の重さで打つことと、玄能を釘にまっすぐあてること。
- ・ノコギリの使い方…クランプを使い、座って切ることを薦めている。骨盤を起こし姿勢良く、力ではなくノコ刃で挽くこと。音を聞いて挽くことも重要である。
- ・紙やすりの使い方…削り方は、木目に沿って削るのは勿論であるが、腕は肘を痛めないように身体に無理なく動かすこと。
- ・塗装について…植物油には2種類あり、乾性油と不乾性油がある。乾性油は空気中の酸素と結合して樹脂化する。乾燥する時に発熱し処理を誤ると発火することがあるので注意が必要である。



2人で協力して作り上げます



作る姿も美しく



丁寧に仕上げていきます



道具の準備も美しく

美しいモノを美しいと思える心を育てれば、
命を大切に人々を育むことができる

“美しく”を暮らしの中に意識し、その姿を見せていく。「美しい」と思う姿は十人十色であるし、日々のことに追われる現実があるが、美しくありたいという、「大人の願い」がこそが大切です。

2日間で1つでも共感したことがあれば「良いね」で終わらず、それを日々身の丈でよいので、伝えることを工夫して欲しい、という言葉で締めくくられました。

木育サポーター養成講座 in 西白杵

日時：令和元年6月15日(土) 10:30～16:00
 場所：西白杵支庁2階大会議室
 講師：ぎふ木育協会事務局 吉田 理恵 氏
 T.A: 岐阜県立森林文化アカデミー教授 松井 勲尚氏
 参加者：24名



今年度は初めて会場を西白杵に移し、木育サポーター養成講座を行いました。講師には、『ぎふ木育協会』事務局長であり、木育を通して人をつなぐ活動をする NPOmusubi を立ち上げ代表を務める吉田理恵さんに来ていただきました。午前『木育カフェ』の体験を、そして午後は「my アイスクリームスプーン作り」をし

“木育カフェ”体験

「木育カフェ」は松井教授が考案した“新しい話し合いの手法”で、ワールドカフェという話し合いの手法と木育=木のものづくりを合体させたものです。つまり、木のものづくりをしながら、話し合いをするのです。木のものづくりでは、吉田さんの地元の特産“美濃和紙”の原料である楮の、樹皮を取り除いた芯の部分と美濃和紙を使ったストラップやブックマーク作りをしました。また、話し合いは3つの話題に沿って話し合いをしました。

ものづくり・材料への想い

美濃和紙は世界遺産に登録されました。それはつまり存続が危ないという意味であり、紙漉き職人だけでなく、道具を作る職人も存続が危ぶまれる状況です。この教材を通して職人さんたちの現状や想い、願いを伝えることで、誰かに、何かに繋がることを信じて教材の開発やストーリーの掘り起こしをしています。宮崎県でも身近な素材で、県民の皆さんに伝えていきたい教材を開発するきっかけとなればと、美濃和紙の教材を体験していただきました。



午後はアイスクリームスプーン作り

3樹種「ヒノキ」「クリ」「ホノノキ」から好きな材を選び、スプーン作りを行いました。紙やすりでひたすら磨き、自分の口に合うスプーンを作り、最後は、実際にアイスクリームを食べました。自分で作ったスプーンで食べるアイスクリームは普段よりもおいしく感じられたようです。こちら、ただ作るだけの活動ではありません。スプーン作りを通して、木・樹のこと、道具のことを知ってもらい、考えてもらうという目的があります。地域のこと自分のこと、暮らし方を考えるきっかけとして欲しい…これが吉田さんの目指す木育です。

西白杵の木育に関心がある皆さんを集めての講座が、サポーターとして必要な心構えとそれに付随するものづくりの知識や技術を深めるきっかけとなったならうれしく思います。



3樹種の材料です



アイスクリームが食べられる形になるまで、ひたすら磨きます。

話し合い・話題を広め深める3つのテーマ

- ①「子どもの頃の遊び」 ②「西白杵の良いところ」
- ③「西白杵でやってみたい！こんなこと、あんなこと」

①の話題では夜神楽で使われる“あさぎ”という木でチャンバラごっこをやっていたという西白杵ならではのお話、②の話題では「空気がおいしい」「人が温かい」「協力的」など、自然や人に関しての良さがたくさん出てきました。③の話題では「旅行者がリピーターになってくれるようなもの」という意見や、「寒暖差を利用したお茶づくり」など具体的な意見も出ました。この話し合いの目的は、ストーリーの発掘や聞き取り、コミュニケーションを楽しむことも含まれます。

体験して頂いた方々から、「地域の方と知り合いになれたのが良かった。」「モノを作りながら、ということだったが、簡単なモノだったので、そればかりにならないのが良いと思った。」「いろんな話が聞けるのが面白い」などの感想がありました。ぜひ、色々な場面で木育カフェの手法を取り入れて頂ければと思います。



作業しながら、会話も弾みます



出来上がった、楮のストラップ
 和紙が巻かれています。楮の芯の部分です。



松井先生による総評

最後に、松井先生より総評を頂きました。モノを大事にする心を木を使って伝えていくことが「木育」だと思います。自分が使って木の味わいを感じ“伝えたい”と思う気持ちで伝えていくことが大事です。また、困難の中に協力があり、協力の中に工夫があり、工夫の元に喜びがあり、喜びの先に感謝が生まれます。最終的な目標・目的は“感謝の心を育むこと”です。サポーターとしての心構えができた1日でした。



出来上がったアイスクリームスプーンと“ひなた”を持って記念撮影

木育ネットワーク部会全体会議

日 時：令和元年7月6日(土) 13:30～16:30

場 所：みやぎきアートセンター 3階創作アトリエ

参加者：28名

つくしんぼ保育園・ととろ保育園（延岡市）



「森林（もり）のイクボス木づかい宣言支援事業」の補助を使用し、つくしんぼ保育園では、親子でくつろげる絵本コーナーやままごとセットを新設。ととろ保育園では、0～5歳児の成長に合わせた机と椅子を購入しました。

子どもたちが笑顔で利用しています。園が木育に取り組むようになったのは、職員が木育サポーター養成講座を受講したことがきっかけとなりました。受講後、自然と木製品を選ぶようになり、子どもたちへの木育として、まず、素材に触れることから始めました。そうすると子どもたちから「ツルツルがいい！」「ザラザラがいい！」という反応があり、同じ木なのに「ツルツル」と「ザラザラ」があることの気づきの声がありました。そこで、ヤスリがけ体験を行いました。そうすると、「こながでてきた」「きのにおいがする」「すべすべしてきた」など思いの気づきがありました。体験したことで学べたこととして、木育を実感した体験でした。また、地元の製材所を巡るツアーに参加し、頂いた端材でおもちゃを作りました。そのほか、延岡市の保育協議会が主催になっているイベントにおいて、木育遊具コーナーを設置しました。保育の一部として「木育」を取り入れ、好奇心や探求心を育て命あるものを大切にしてほしいと思い取り組んでいます。

めぐみ保育園（宮崎市）



人口が減少している中、田野町は人口が増えており、園も町内だけでなく町外からも見学が多くなっています。園では、8年前園長が①こころ豊かな、明るいこども②夢中になって、こども達が遊びこめる特別な活動、というのを

掲げました。そこで、園長が1枚のパンフレットを目にし、電話をしたことでスペシャルな出会いが生まれました。それは、ボーイスカウトの皆さんです。園では年長児を対象にネイチャーアクションを行っています。ボーイスカウトの方をリーダーとし、森の散策、沢遊びや野外料理、アスレチックや秘密基地作り、そして、卒業記念品作りをしています。沢遊びでは端材で作った船を川に浮かべたり、秘密基地作りの時には、子ども達の目の前で木を一本伐採してもらい（子どもたちは大興奮！）、倒れた木の枝や葉っぱを使って完成させています。出来上がった秘密基地は子どもたちの特別な空間となります。園は仏教系ですので、仏教保育を通しての木育も行っています。住職より「人は木がなければ生きていけない。木は人が手入れをしないれば育たない。人と木は持ちつ持たれつ関係を築いていけない。」ことや「木は土の中にしっかりと根を張って生きている。みんなも木のようにしっかりと根を張って過ごしましょう。」とお話してもらいました。木育活動を始めて8年目になりますが、卒園生が小学校に上がり書いた作文が賞に選ばれたのですが、木に関する作文でした。卒園式の時には保護者からの提案でさくらんぼの木の植樹を行いました。今後、園では保護者と一緒に取り組む木育活動に取り組んでいきたいと思っています。

県内各地で活動しているしている木育ネットワーク部会会員の取組を発表してもらい、会員相互の交流を図り、情報を共有し木育に取り組む意欲の向上を目指すために実施しました。

宮崎県木材青壮年会連合会（西諸地区）



木育活動を始めて10年がたちます。PTA役員を担っていた関係で学校と連携が取れ、近隣の学校と合同で家庭教育学習級として、木育活動を行っています。生徒と保護者が一緒に参加する木工教室ですが、始める前に、山の木に

ついて話します。山で育った木を伐ることは環境破壊なのか、なぜ、山の木がキレイに並んでいるのか、など、人の手で育てられていることを知ってもらい、木工を始めます。最初は体育館を使っていましたが、体育館の床を傷付けないよう技術室を使わせてもらっています。また、技術の授業でも木育を取り入れてもらい、木育の話を行ってもらった後、製作活動を行っています。卒業制作を木で作ったりもしています。高校でもそうですが、先生方の理解があり活動できています。私自身は“ボール転がし”というおもちゃのキットを作っているのですが、各イベントで好評を得ています。また、いろんな方々から意見をいただき改良を重ねています。仕事をしながらなので、正直、キツイ部分もありますが、今後も子どもたちに木育を伝えていきたいと思っています。

宮崎県西臼杵支庁 林務課（西臼杵）



私自身は県庁職員であるが、仕事としてではなく、ライフワークとして木育に取り組んでいます。西臼杵では18%の生徒が仕事があれば地元に残りたいと思っていますが、実際は5%の生徒しか残っていません。仕事を増やすには、

“林業”が胸を張って働ける環境になることで、地元が元気になり仕事が増えることに繋がると思っています。しかし、多くの方が、林業に対し、3K(キツイ、キケン、キタナイ)のイメージのほか、環境破壊というイメージを持っています。そこで、西臼杵では高千穂高校の1年生を対象に、伐採現場見学や造林体験、林業家とのトークセッションを行いました。また、3年生を対象に“卒業モリプロ”とし、林業家に材料になる木の話と思いを伝えてもらいました。「みんなと同じ18歳の木である」「木は私たちの親世代が苗を植え大切に育てた。皆さんも家族や多くの方のおかげで成長できた。感謝を忘れないで」「木は自分からあきらめない。環境に合わせて生きていく」など、1本の木を通し溢れる思いを伝えてもらいました。また、八戸小学校、上野中学校でも卒業モリプロを実施しました。他、天岩戸保育園では、新園舎上棟式と連携した木育活動や保育参観で木育を行いました。木育の育は教育の育です。教育は継続することで効果があると思っています。これからも故郷の自然の思い出を多く残してあげるためにも、木育活動を行っていきます。

● 参加者の感想 ●

「それぞれ木育に真摯に取り組まれていることに感動」「大変参考になった」など発表にかんする声のほか、「木育サポーターが行動しやすい環境が整うと効果的になるのでは」「情報が欲しい」などの意見もありました。部会としても、今後もこのような情報交換の場を設け、会員同士が繋がることで木育活動の普及が広まれば、と願っています。

木育研修会（振り返り）

日時：令和元年7月12日（金）13:00～15:00
場所：西白杵支庁2階大会議室
講師：守川美輪氏（宮崎国際大学 准教授）
参加数：14名



保育士のフォローアップ研修として、アイスクリームスプーンづくりを行いました。



材料はカヤ、ホオ、ナラ、ヤマザクラ、カバザクラ、ケヤキ、ヒノキ、クリの8種類。好きな材を選び、磨き始めました。園児に人気だったのは「カヤ」でした！



園児には最初に見本を触ってもらい、紙やすりの使い方を見せました。手順書をみながら、子どもたちは自分の判断で製作を進めていました。削っているときは、「こながでた」「すべすべになった」「においがする」など、感覚を開き作業をする様子がみられました。出来上がった後は、素晴らしいスプーンを大切にしてほしいことを伝え終わりました。

「みやぎき木づかい県民会議」総会

日時：令和元年8月5日（月）10:00～12:00
場所：ニューウェルシティ宮崎 2階 高千穂の間

宮崎の豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県産材の地産地消に取り組むことが重要です。

この取組を官民一体となって進めるため設立された「みやぎき木づかい県民会議」の総会が8月5日にニューウェルシティ宮崎で開催されました。

総会では、毎年、県産材の利用拡大や普及PR等について顕著な功績があった団体に対し、感謝状が贈られますが、今年度は、「県産材普及・啓発部門」で木育ネットワーク部会会員の西白杵林業振興協議会と社会福祉法人つくしんぼ福祉会の木育活動の取組が評価され、会長である宮崎県知事から感謝状が授与されました。授与式の後は、それぞれ取組内容について事例発表が行われました。



今年度の表彰団体
2列目 左「日向市 和田 康之様」
中「つくしんぼ福祉会 塩満 克也様」
左「西白杵林業振興協議会 甲斐 宗之様」
1列目 左「みやこのじょう児童学園 船木 和子様」
中「会長 河野知事」
右「児童発達支援センターあはは 田村 智佐枝様」



県知事の挨拶



県知事による表彰



事例発表



意見交換

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやぎき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

